

ORIENTEERING JAPAN

O JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'93/7

1993年〔平成5年〕7月10日発行

(毎月1回10日発行)

第10巻第7号通巻第120号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可





- 地図記号
- 主要道路
 - 道路
 - 道
 - 小道
 - 小径
 - 植生界(明確, 不明)
 - 橋(通行可, 不可)
 - トンネル
 - 橋
 - 土がけ(通行可, 不可)
 - 岩がけ(通行可, 不可)
 - 凹地(大, 小, 穴)
 - 乾いた溝、テラス
 - こぶ(大, 小)
 - 建物
 - ほこら等、墓、鉄塔
 - 川、せき、湧水点
 - 湿った溝・季節的水路
 - 細い湿地
 - 井戸、貯水槽
 - 切株、倒木
 - クリアリング
 - 民家等の敷地(立入禁止)
 - 立入禁止の開けた土地
 - 立入可能な開けた土地
 - 果樹園
 - しいたけ床(立入禁止)
 - ビニールハウス
 - 植林地・荒地・伐採地
 - 湿地
 - 走行可能
 - 歩行可能
 - 通行困難

縮尺 1:10,000
等高線間隔 5m

この地図は「加住丘陵」(1981年、奥大OLK)及び「菊山城趾」(1981年、東京高専OL部)を基に調査したものである。

調査期間 1992年8月~1993年3月
調査者 池上 浩平 大江 桜麻 奥村 理也
井上 英毅 小日向秀夫 桜井 太郎
佐々木 順 塩澤 大 杉崎 睦
鈴木 幸弥 山本 英勝 野田 ゆかり
青柳 利明 岩瀬 芳典 緒方 賢史
門田 成徳 清谷 智弘 田浦 裕生
中前 茂文 永田 秀樹 野中 俊樹
清中 信秋 松島 正尚 藤田 啓二
渡辺 繁樹 草野小枝子 白水 上枝
三宅 健 大西 淳一 金丸 隆志
大井 健 大西 淳一 金丸 隆志
神谷 俊一 鹿井 麗 高瀬 啓一郎
田崎 博実 中村 卓史 野上 健士
林田 真昌 藤咲 芳春 村田 真之
石川 厚子 伊藤 幸子 大平 恭子
大森 典子 岡山 千夏 菅野 堅香子
中尾 あずさ 堀米 雅美 松浦 道子
松本 歌織 三浦 靖代
調査協力 千葉 真 山本 久 清谷 智弘

All controls 59

林塩中

作図者 青柳 利明 千原あかね 吉澤由美子
作図指導 杉崎 睦
作図協力 清谷 智弘 緒方 賢史 田浦 裕生
松島 正尚 渡辺 寿理 村上さおり
伊藤 幸子 野上 健士
題 字 青木 美樹
調 製 R.M.O-サービス
印 刷 株式会社 1993.5.



東京都八王子市・秋川市

高月城趾



あおやき あかね ゆみ



●=投稿=

I O F クリニック レポート 朱雀OK・樋口 一志.....4

●=SQUADより=

「WOC93日本代表選手決定！！」

「WOC代表選手の抱負」

「SQUAD主催イベントのお知らせ」

「JWOC出場選手紹介」

SQUAD 広報担当・桐田 幸宏.....5-8

●イベント・レポート

「第35回中日東海ブロックOL大会」

「第1回鳥取砂丘オリエンテーリング大会」

「オオムラサキの里オリエンテーリング大会」

「ニュー京都カップオリエンテーリング大会」

「静岡大学オリエンテーリング大会」

「静岡OLC・リレーオリエンテーリング大会」

「第1回阿蘇オリエンテーリング大会」

小野 盛光, 清水 潔

財間 定義, 岡本 忠佳

福田 良雄

.....9-12

●=投稿=

「ちょっと変わった

オリエンテーリングの仲間の競技」

茨城FOXテリング倶楽部・田中 康正.....13-15

●'FOX HUNTING' in HUNGARY From COMPASS SPORT

抄訳・田口 肇.....14-15

●=全国PC愛好会=

パーマメントコースりばへ

水野 博司, 大高 竜亮

窪田 宏明, 木佐木輝雄.....16-18

●=都道府県協会より= =情報あれこれ=

.....20

【今月の表紙】5月30日, 第19回F T Vファミリー・オリエンテーリング大会, スタート枠での木植早生さん(92年度全日本女子チャンピオン) =本誌5ページ参照。

【今月の地図】6月6日, 第15回東大OLK大会(東京・八王子市)の使用地図。

~~~~~ストリーマー~~~~~  
 ※ スタート地点  
 ※ みなさまよりのたくさんの投稿やレポートのお陰で, 目次でスペース  
 ※ がいっぱいになりました。スタートまでのストリーマーも, こんなに短  
 ※ いと楽な運営ができます。昔懐かしい, △と○が重なったような大会,  
 ※ しかも市販の地図や白黒のコピー・マップで十分。初心に戻って.....  
 ※ 流人

## I O F クリニック リポート

樋口 一志 (朱雀オリエンテeringクラブ)

1993年5月27~31日に、香港でI O Fのコーチングクリニックがありました。日本からの参加者は私一人だったので、この場をかりてその報告をします。

あらまし

今回のクリニックはI O F (国際オリエンテering連盟)の主催したもので、O-RINGENなどの時に開かれているものと同様ですが、アジア地域では初めて開かれたものです。香港オリエンテering協会からI O Fの方に働きかけて、今回のこのクリニックが行われることになったそうです。クリニックの内容は、I O F COACHING CLINIC FOR ASIA REGION という名の示すとおり、コーチング、それも初心者、子供などへの指導が話のメインで、レベルや年齢に応じた適切な指導についてのレクチャーが多く為されました。イギリスから来た Peter Palmer が今回のクリニックのチーフコーチで、彼と Marlene 夫人がコーチングの話をし、息子の Steve (前回のユニバーシアード2位、イギリスNo. 1のエリート) がエリートのOLについて主に話をしました。テクニカルな内容は別の機会に譲るとしてここではそれ以外の話、特にアジアのOL界について聞いたことを書きたいと思います。

参加した国は、香港、韓国、中国、マレーシア、日本の5か国でした。アジア地区で初めてのI O F主催のクリニックということで、日本以外の国々からは各OL協会の代表者が顔をそろえていて、どこも意気込みのようなものが感じられました。

韓国からはOL連盟の会長代行の呉正煥 (Oh Jung-Hwan) 氏以下5名が来ていました。呉さんは日本のOL関係者も何人か知っておられ、今後は今まで以上に日本と友好関係を深め、協力して親善大会や国際大会を開いて行きたいとのこと。J O A のことなども知っておられるようで、日韓親善大会が日本の番になる

と開催されなくなってしまうのは困ったのだと言われてしまった。

中国からもOL委員会の陳平 (Chin Ping) 氏以下7名が参加していました。中国のOL委員会はアマチュア無線協会から最近独立してできたものだそうです。Fox Hunting (無線を使ったOLに似た競技)をやっていた人たちが始めたものだそうです。今は学校への普及に力を入れていて、1万人の競技会、あるいは高校生だけで5千人の競技会もあるそうです。中国ではこうした活動はすべて行政からお金が出ていて、今回のクリニックも当然そこから派遣されるという形で来ていました。中国のOLはまだまだこれからのので、日本ともっと交流したいとのこと。いくつかのイベントに日本からの参加者を呼びたいと考えているので、ぜひ中国へ来てくださいと言っていました。

ホスト国であった香港は当然のように力を入れていて、クリニックのオーガナイザーを務めた Patric (呉金富) 氏やOL協会の会長の黄文柱 (Wong Man Chu, Albert) 氏をはじめとしてOL界の主だった人には会えたと思います。また、Hong Kong Coaching Committee (日本で言うなら体育協会指導者養成委員会とも言うのだろうか) が今回のクリニックをバックアップしていて、香港体育学院 (Hong Kong Sports Institute) というすぐ立派できれいな総合スポーツセンターを今回の会場兼宿舎として使うことができました。

クリニックの中には、各国の代表が自国の現状、コーチングシステム、今後の展望などを述べる時間もあり、またどの国も日本のことを聞きたがっていたので(競技力だけなら日本はアジアでは間違いなくNo. 1である)、私は日本の代表として話をしなければなりません。さらに、「何故日本からは一人しか来ないんだ?」「お前は日本のどこの、どういった団体の代表なんだ?」「どう

やって選ばれたんだ?」などといった、答えるのに困るような質問もたくさんされました。断っておきますが、私は選ばれて参加したわけでも、日本代表として参加したわけでもありません。強いて言うなら村越さんに声をかけられて、彼に旅費を作ってもらって、残りは自費で個人的に参加したのです。しかし私は、食事の時や、その他機会ある毎に各国の代表者といろいろな話をし、私の発言はある程度は日本のOL界の意見として受け取られたことでしょう。お陰でアジアのOL組織の代表者で私が面識がないのはJ O A の会長だけになってしまいました。中国の方からは、日本のOL協会に中国のイベントの案内を出しているのだけれど、何の反応もないのはどうしてでしょうと聞かれました。(後でO-JAPANと日本学連の住所を教えておきました。)日本のOL組織の問題もオリエンティア全員で少しずつでも改善して行きたいものです。また彼らもそれを望んでいます。アジアの人たちは私が思っている以上に日本のOLに興味を持っています。O-JAPANは日本以外でも購読できるのかとか、英語版は無いのかといったことまで聞かれました。また、香港でも大学に入ってからOLを始める者が多く、日本の学連やインカレのことにも大変興味をもったようでした。

最後に

村越さんの「OLの方法序説」の本を買って、私の旅費に協力して下さった方々、どうも有り難うございました。コーチングに関するレポートはその内にまとまった形にするつもりです。また、香港のジュニアを日本に招待して一緒にトレーニングするという企画がいま進んでいます。オリエンティアの皆さん、あるいはいくつかのクラブに協力をお願いすることになるでしょう。その時はよろしくお願ひいたします。

~~~~~


SQUADより

SQUAD (WOC SQUAD JAPAN) はナショナルチームをサポートしています

WOC 93 日本代表選手決定!!

去る7月4日(日)、滋賀県甲賀郡土山町「あいの土山」に於いて、WOC '93の最終選考レースが開催された。結果は右のとおり。選考規定により、男子・入江崇と女子・渡辺初実が代表選手に決定。若手の躍進が目立つ結果となった。

残る選手も、男子は吉田勉と国沢五月、女子は金子しのぶと宮本知江子が、それぞれ即日推薦され、これによりすべての代表選手が決定した。(詳細次号)

[日本代表チームへの援助のお願い]
※賛助会費としてお受けし、大会参加の必要経費に充当させていただきます。

①郵便振替：東京6-651396

加入者名：

「WOC SQUAD JAPAN」

②送金(定額小為替)

〒491 愛知県一宮市時之島字大東81

SQUAD賛助会費担当

落合 公也 あて

本セレ第二戦結果

【男子】

1. 入江 崇	72:35
2. 中村弘太郎	75:23
3. 吉田 勉	77:40
4. 広江 淳良	77:59
5. 樋口 一志	78:21
6. 鈴木 康史	78:42
7. 羽鳥 和重	80:08
8. 田代 雅之	82:33
9. 国沢 五月	83:59
10. 加賀屋博文	84:37
11. 稲葉 英雄	87:26
12. 利光 良平	89:12
13. 河合 芳尚	94:31
14. 鈴木 雄輔	96:09
15. 鈴木 卓弥	97:38
16. 富田 吉郎	101:54

【女子】

1. 渡辺 初実	68:03
2. 千葉あかね	69:50
3. 金子しのぶ	72:37
4. 田垣 尚美	73:51
5. 渡辺 弥生	76:16
6. 長岡 理恵	82:09
7. 金田 収子	82:32
8. 小西 陽子	85:04
9. 草野 望	90:52
10. 長谷川恵子	93:08
11. 加納 尚子	93:23
12. 田島 利佳	97:31
13. 鈴木夕紀子	121:53
宮本知江子	D N F
濱田 由紀	D N F

WOC代表選手の抱負

今回は木植さんだけです(残りの選手は次号で)

<木植 早生>



92/5 APOC団体戦優勝(ゴール直後)

前回同様、今回も全日本で早くも出場権を得、ほっとする思いの反面、本セレで役員を皆の表情や一生懸命走る姿を見ると、それまで私も本セレを走るとき不安を思い出し、この皆と誰とも一緒に遠征したいと思ったり、少々複雑さが交じります。

WOCは、ひととき重みのある大会です。コース設定、地図の精度や美しさ、ゲレンデの良さ、運営、応援者、会場のにぎわい・・・何をとってもそれはもう世界一です。ですから個人個人はそれぞれの強い意志で、チームとしては日本を代表する最強のメンバーで臨みたいものです。女子のみでいうと、ランキング表を見た限りでは、あわや前回と同じメンバーかと思えるほどでしたが(ここ数年・・・いやずっと?!上位はあまり変らなかった)、なにやら今回は一步前進期、転換期という気がします。そして私達の層が日本の上位にいる以上に、ぜひ若い人達にぐんぐん伸びて欲しい、頑張っていて欲しいと願いつつ、今回は年長者として、また10年のキャリアを生かして、皆からはよくやっとな安心され、自分でも気持ちよかったと言えるよう頑張りたいと思います。

OLとは体力(走力)と技術両方そなえた競技と思っていますから、まさしくその醍醐味である個人戦ではぜひともロングに出場し走り切り切りたいと思っています。男子の16~7kmには驚きますが、女子も10km位はあります。日本ではなかなかないので心配のない体力を持たなければなりません。それに合わせたトレーニングとして、スタミナづくり、走るのが嫌いな私も気持ちをひきしめ、あと4ヶ月あるのですから走り込みを始めよう決めました。又、筋トレを取り入れることにしました。ショートOも、皆あと少しで決勝だったので楽しみです。あのスピード感覚は、迫力あり、まるでジェットコースターのようなスリルもあり「一気に」がびつたりです。そしてリレーこそなんとしてでも一致団結し、完走目標から「いよいよできてきたか」と思わせるほどのポジションにそろそろつかなければ・・・つきたいと思います。

全国の応援してくださるたくさんの方々へ、いいみやげ話ができる様、期待はずれにならないように。

SQUAD主催イベントのお知らせ

SQUADジュニア合宿のご案内

佐藤信彦

SQUADは、毎年夏冬に高校生、中学生を対象とした合宿を開催してきました。今年もSQUADやナショナルチームに属するエリートランナーをコーチとして、オリエンテーリング技術の上達を目指した密度の濃い合宿を行います。例年通り、コーチ、アシスタントコーチを十分に揃え、キメの細かい指導を行います。
やる気のある高校生、中学生の参加をお待ちしています。

日程 1993年8月27日(金)～29日(日)
場所 山梨県大泉村「鳴石」
トータスの手によるニューマップを使用する予定
宿舎 ハヶ岳スポーツセンター
参加費 1万5千円程度(予定)(宿泊費込)
申込方法 葉書に住所、氏名、電話番号、所属クラブ等を記入して下記まで。
〒227 神奈川県横浜市緑区長津田4-15-18-103
佐藤信彦

締め切り 8月10日必着
問い合わせ先 佐藤信彦 045-985-1924(22:00-24:00)
落合公也 0586-78-6382

93WOC日本代表選手壮行

チャリティOL大会

9月11日に、日本初の6人リレーを世界選手権大会への日本選手派遣のチャリティとしてハヶ岳山麓にて開催します。

翌日はトータス大会。是非セットで参加してください。

要項は本誌6月号

問い合わせ先
山川克則 0474-86-5162
佐藤信彦 045-985-1924
稲葉英雄 0564-55-5602
申込締切 8月20日(金)

僕を覚えてね：NT人物紹介

菅原 琢 (多摩OL)



91/9 都道府県対抗リレー

この3月に行われた全日本大会でH21E3位。村越、鹿島田に次ぐ順位といえば恐れおおい。ようやく全国にも、その名がとどろいたことだろう。この春も、公認オオムラサキ5位、公認静大2位、東大大会7位と好調が続く。決して過去は目立っていない。インカレは1回も40位に入っていないし、今回も含めてVMではセレクションの選考すら落している(過去1回も出場できていない)。

彼をここまで育てたのは走カトレニングのようだ。大学を卒業してから走る量が増えた。5年くらい前に自らはじめた多摩OLの年間走り込み大会がきっかけだという。3年前には同大会にNTも巻き込んだ。「(自分が走カランナーというのが前提にあるけど

)走れないことにはゲームにならない、レースにならない。特に日本の場合、かつては、エリートであっても全く走れなかった。今では月200km以上走る人がめずらしくなくなったが、自分が走りはじめた頃は月100km走る人でも希だった。エリートの何年かの動きを見ればわかるが、特に男子エリートは速くないと勝てないようにオリエンテーリングの質が変わった。そういう風に時代が変わったのは成果じゃないかと思う。これからみんなに言いたいのは、距離を走るといっても1つだが、トレーニング方法を良く考えて欲しい。エリートさえもトレーニングのやり方を知らない。みんなで学んで欲しい。」

今や彼は、NTに対する(特に女子に対する?)走ることへの伝導師のようだ。

NTの間で配布される機関紙NTブリテンの編集者としても有名。編集者特権?とも思える、OL界に対する個人的見解が散りばめられていて興味深い。賛否両論はあるようだが、それも彼のOL界に対する情熱の落し子と言えよう。

「OL界を良くするためにどうすればいいかをみんな考えて欲しい。批判すべきところは批判して、受け入れるべきところは受け入れる。そうすることによって、将来日本で開かれるであろうWCやWOCにつなげて行きませんか。」

彼の呼びかけを生かすか殺すかは、彼自身の表現ではなく、我々オリエンティア個々の意識の問題なのだろう。みんなの意識をちょっとでも変えて行こうと彼は頑張っている。

保谷高校出身。

東邦大学ではクラブがなく、学連に個人加盟をしていた。3年生の時ヨーロッパに遠征し、その規模に圧倒される。目から鱗が落ちたという。

H21Eにも21才から出ていたが当初は平凡なランナー。走る量が増えてランキングリストにも名前が乗ってくる。そして本文に至る現在へ。

パソコン通信が趣味。スコードの有力者とネットワークがつながっている。もっともっと広げたいという。

27才。独身。ちょっと春めいた噂もチラホラする。

JWOC 出場選手紹介

先月号でもお知らせしたとおり、本年7月、ポーランドはグディニアにて開催されるJWOC（ジュニア世界選手権大会）に日本からも代表選手が派遣される。

今回はSQUADと選手選考とは関わりがなかったが（将来的には関わる予定）、選手達の抱負を掲載しておきたいと思う。

参加報告については、来月号あたりで報告したい。

鈴木 篤

（すずき あつし）



早稲田大学 人間科学部（2年生）

1973.6.17生

私立早稲田実業中・高出身

89 早稲田実業OC主将

90 関東高連幹事長

91 インターハイHE優勝

92 インカレ（滋賀）HE9位

今は旅に出る前の、誰もが感じるであろう思いを胸一杯、体のすみずみ迄感じていて、それらを落ち着かせるのに忙しい、といった感じだ。

今回の遠征は、とにかく早い時期に本物を、本場を見ておき、これからに役立てたいという気持ちの表れであり、それがJWOCという世界戦に形をとったのですから自分の幸運を感じざるを得ません。もちろんこの幸運の中に、多くの頼りがいある先輩達の存在と、JOAの援助を得られたことが含まれるのは言うまでもなく、その期待に応えられるだけのものを得てこようという気持ちが、自分の不安な部分を支えてくれているように思えます。

JWOCに関しては規模が小さいせいか、一般的に評価や関心の低さを感じましたが、少なくとも私達には努力と結果の上に得た代表権ですので精一杯やってみようと考えています。もちろん、「帰ってきた後が大切」というのも充分承知しています。私達が何を得てくるか、楽しみにして頂ければ幸いです。

諏訪 高典

（すわ たかのり）

ヨーロッパ遠征をすることは昨年から考えていました。行くのであれば、大学の授業のことも考えて二回生の時が最後のチャンスだと聞いていたので、今年2月になってJWOC参加者募集の話を聞いて、よしこれに出ようと思いました。その後代表に正式決定するまでにやや障害もあったようですが、JWOCに行くという自分の意志は変わらず、4月以降はJWOCを目標としてずっとトレーニングしていました。今回、始めから参加希望者が3人と少なかったのは残念ですが、外国人選手に交じって萎縮することなく、他の二人のメンバーとともに元気に走ってこようと思います。

最後に、出発に当って利光さん、安斎さん、京大の皆さんや、その他お世話下さった全ての皆さんに御礼申し上げるとともに、帰国後今回の遠征の成果を発揮して活躍することを誓います。

6月25日



京都大学 工学部（2年生）

1973.8.28生

私立麻布中・高出身

89 麻布学園OLC部長

90 関東高連理事

89 90 インターハイ団体HE優勝

92 インカレ（滋賀）HE出場

過去3回の出場メンバー（参考）

- 第1回（90年 スウェーデン/ラップランド）
利光良平 井上直文 田島利佳 佐藤尚子
（オフィシャル 中村弘太郎）
- 第2回（91年 ドイツ/ベルリン）
稲垣忠洋 多久和克哉 児玉光司
渡辺弥生 奥山陽子 小西陽子
（オフィシャル 中村弘太郎）
- 第3回（92年 フィンランド/ユバスキュラ）
入江崇 桜井太郎 安斎秀樹
吉村年史 小林哲 志村聡子
（オフィシャル 利光良平 菊地正昭）

森 泰祐

(もり たいすけ)



山口大学 理学部 (2 回生)
1973.8.20生
北九州市立大谷中学出身
福岡県立戸畑高校出身
92 インカレ (滋賀) HE 出場

僕が JWOC を知ったのは、去年の夏合宿のとき、広島大学 3 年の吉村先輩から、その年の夏に、ヨーロッパへ海外遠征に行ったというのを聞いたときでした。その時は「僕も行きたいなー」と思っていたけれども、まさか正夢になるとは・・・

2 月 21 日、埼玉県で行われた早稲田大学大会で、東北大学の安斎さんから「ヨーロッパへ行って見ないか?」と言われ、その時は何と答えたらいいのかわからなかった為「考えときます」と答え、親と相談し、一生に一度のチャンスだから行っておいでということでインカレのときに O.K. の返事をしました。今では、海の向こうのテラインはどんな地形なのだろう、オリエンティアはどんなオリエンをするのだろう、飛行機は落ちやしないか、財布は取られやしないかなど、想像や不安が頭をよぎるばかりです。

JWOC に参加するにあたって、自分の技術が、どこまで世界に通用するか、海の向こうのオリエンティアはどのくらい高い技術を持っているのか、どのようにすれば自分の技術が伸びるかを勉強してきたいと思っています。日本に戻ってくるときは、一皮も二皮もむけて中九四学連のエースとなれるように頑張りますので、応援よろしくをお願いします。

H.5.6.22

クロカンにでませんか?



信州/ビーナスライン・車山高原
車山高原
クロスカンツリー

毎年 6 月の第 3 週の日曜日、信州・車山高原では、恒例のクロスカンツリー大会が開かれている。この大会には、ここ数年来オリエンティアの参加が多い。本年度も 80 人を越えるエントリーが確認された。年々の増加傾向を考えると 100 人に達するのも時間の問題だろう。

オリエンテーリングにおける走ることの重要性は、殊に近年クローズアップされてきている。本号でも紹介した菅原琢君らの活躍なども一躍を担っているのだろう。走トレニングを意識したオリエンティアが増えつつあるのは確かなようだ。多摩 OL が主催する年間走り込み大会などにも NT の全メンバーが参加し、走ることへの大きな動機付けとなっている。そうした中で、車山のクロスカンツリー大会でもオリエンティアの活躍が目立ち始めてきた。特に若手女子オリエンティアの躍進は目ざましく、本年も 20 才代の部で表彰者 10 人のうちの 7 人を独占するに至った。

オリエンテーリングとも NT とも直接関係はないが、入賞者の成績を披露して、大会の紹介に替えたい。来年度のより多くのオリエンティアの参加を期待する。

入賞者成績

【15 km】	
男子 30 才代	
6 位 村越真	55.2.
【7 km】	
男子高校～20 才代	
9 位 星野潤寿	31.34
男子 30 才代	
10 位 鈴木雄輔	34.30

【7 km】

女子高校～20 才代	
1 位 福士淑子	37.13
2 位 金子しのぶ	38.50
4 位 金田取子	41.30
6 位 高木貴美江	42.36
7 位 渡辺初実	43.58
8 位 宮本知江子	45.59
10 位 原志保子	46.10
女子 30 才代	
3 位 木植早生	42.14
8 位 長谷川恵子	47.58
10 位 小林正子	48.26



←入賞 (10 位まで) を果たした選手のみなさん



参加をしたオリエンティア (ゴール後にその場にいた人達)

□1993年4月11日(日)

**第35回
中日東海ブロック
OL大会**

■静岡県浜松市

駅名:小野 盛光(三河OLC)

桜が咲いてから肌寒い日が続く最近でしたが、比較的暖かい日になりました。但し午後から雨が降るとの予報でした。競技エリアは浜松市南部の太平洋に面した中田島砂丘というところ。地図は1987年作成とやや古いが、走って見てもほとんど変化は見られず、全く違和感は無かった。

今年8月に行われるO-CUPが海浜の砂防林で行われるので、そのためのトレーニングにもなると考えた人も少なくはないと思う。中田島砂丘は東海地方では結構な観光地でもあり、訪れる人も多く、またゴールデンウィークに開催される風揚げ祭りのリハーサルが行われており、観光客の中を走るのOLのPRになったのではと思う。

クラスは2年前の三河OLCの主管の時と似た構成で、H1、H2、H3、D1、D2、D3、HN、DNとなっていた。コースはH1が6600m、15コントロール。大きな特徴物から離れた第④コントロールでロスした人が多く、私もここで、4分後にスタートした愛場さんに抜かれました。中間の⑧から⑩は砂丘を横切るルートも考えられるコースでしたが、避けた人が多かったようです。しかし終盤の⑫から⑭は砂丘は避けられず、柔らかい地面に足をとられて苦労をしました。フラットで、道を使うことの多いコースで、トップは30分18秒と1km当たり4分35秒で走っています。

[速報から]

H1(6600m 15コントロール)

1. 富田吉郎(多摩OL) 30:18(4:35/km)
2. 落合公也(OLC/神戸) 32:27(4:55/km)
3. 井上直文(名大OLC) 33:02(5:00/km)

D1(6100m 14コントロール)

1. 高木貴美江(京都播女子大)
37:23(6:08/km)
2. 平山寿美子(浜松市) 39:39(6:30/km)
3. 鈴木夕紀子(静岡OLC)
40:30(6:38/km)

□1993年4月11日(日)

**第1回
鳥取砂丘オリエン
テーリング大会**

■鳥取県 鳥取砂丘

駅名:清水 潔(ソニーOLC)

小雨の降るなか、鳥取砂丘の一角にある松林。放送局2社のカメラがスタート枠をとらえています。参加者たちはどうコースを取ろうかと考えています。そして、いよいよ3、2、1と、秒読みが終わってスタート。ファミリー、女子、男子の3クラス、合計40人弱の参加者が思い思いの方向に走り出していきました。砂丘の中に向かって走ってゆく人、近くの路の終わりのポストに向かう人、いろいろいます。しかし、かなりの人数が105のこぶのポストに向かい、チェックの列ができました。

ほとんどの人は、いままでオリエンテーリングといえば、グループで歩いてするものとしか知らなかった人たちばかりです。30分前にスコアOLをならったばかりで、どういうコースをとるのやら見当もつきません。放送局の人にも、どちらにスタートしてゆくのか聞かれても、「さあ」としか答えられませんでした。

スタートしてから50分で1番目のゴール。そして制限時間の1時間でかなりの人がゴール、そして最後は1時間30分、そんなにひどい遅れなしに全員が帰還し、レースは無事終了しました。

レースの後は山西先生の話、そしてカレーを食べながらの交流会が開かれ、みんな楽しんでくれたようでした。

この大会はジョギングの指導者として有名な群馬大の山西教授が主宰となり、



鳥取砂丘を本拠地としている「自然体験塾」が主催して開かれました。

私がOLを紹介し、今までに2回、会員だけで行い、今回は市民一般を対象にして大会を開こうということになったものです。後援は全日本大会並みで、油野先生のおかげで鳥取市陸上競技協会までつきました。

しかし、山下や森下の出身地ということで陸上は盛んな土地ですが、OLはあまり行われておらず、どれだけ集まるか心配でしたが、オリエンティアに宣伝していない上に、雨模様天気としては良く集まったと思っています。次回ももっと早く要項をきめ、駅伝ともぶつからないようにして参加者を集めたいと思っています。

□1993年4月25日(日)

JOA公認

**オオムラサキの里
オリエンテーリング
大会**

■山梨県長坂町

駅名:財間 定義(島根OLC)

《日寺》4月前半の冷え込みで、長野・山梨は桜の満開期でした。晴天・砂塵を巻き上げる強風。

《戸斤》4~6月は、JRと山梨県がクイアップした“大型観光キャンペーン”の一環で、長坂町当局が名乗り出たのが今回の本年度公認大会第一戦。北に八ヶ岳・他方に甲斐駒を望む山岳景観は、この日も美しかった。

《人》先月の早大会+全日本で、対決いかにか?と注目を浴びた<村越><鹿島田>の両雄は今回揃ってエントリー無し。余力を、ゴールデンウィークの大会に向ける為か、この長坂町での大会エントリーは756人・当日申し込みも94人と多数ではなかった。

Aクラス以上の“トップ2”は…

- | | | |
|---------|--------|-----------|
| D21E | ①木植 早生 | 1' 19'43" |
| | ②渡辺 初実 | 1' 24'21" |
| D19-20E | ①高松 伴子 | 1' 56'20" |
| | ②河合 志穂 | 2' 02'49" |
- (次ページ左下段へ続く)

□1993年4月29日(祝)

ニュー京都カップ オリエンテーリング 大会 第一戦

■滋賀県大津市

駅名:岡本 志佳(志摩ハイ村)

朝5時に伊勢を出た時には、雨が降っていたが、京都市内の三条京阪で8時50分発のバスを待っている頃から天気も徐々に回復してきた。頓宮英徳、中島敦美さんとも再会し、京都カップ第2・3戦の場所についてアドバイスしてもらった。

会場の比叡平は京都市左京区と大津市の境界に跨っており、比良山地南側で高原の別荘地らしく明るい雰囲気建物が整然と建ち並んでいた。小学校の体育館で着替えを済ませたあと初心者に対する説明を聞いたが、イラストがきれいでわかりやすく好評でした。参加者はベテランを含め約170名。

スタート地点は、約1キロメートル離れた場所。団地を見渡す絶好の場所で北方向には標高848メートルの比叡山が美しく眺められた。HAクラス(6700m)に

参加したのですが、非常に複雑な地形で第①ポストを取り損ない、道路に降りてしまい大幅なロスタイム。逆コースで順に回り始めたが、⑥から⑦までの途中、谷川沿いの小道を見つけることができず、午後3時のポスト撤収時間となり、帰り始めた。急流の中を全身水浸しとなって約1キロメートルは大変長く感じた。滝壺に落ち込んだり、水ゴケでひっくり返ったり、熊でも出てきたらどうしようかと思いつながら道路に出た時は、嬉しかった。テラインを走っている時「私どこにいるんでしょう」と泣きべそをかいている女性に出会ったが、一緒に帰った方が良かったかと反省しています。

会場に着いたのがスタートから4時間30分後で、掃除を始めていました。「今日は慎重に確実にゆくんぞ。」と決心しながら結果がこのよう有様では恥ずかしいかぎりです。「奥大文字」の地図で辿った経路を赤鉛筆でチェックしている。競技中のことが思い出されます。

オリエンテーリングの魅力、それは自分自身との戦いなのかもしれません。冷静さを失わずに目標に到達する。方法はいくらかもあるが選ぶ手順を誤ると大失敗をする。毎日の生活と同じかもしれません。また再度挑戦するつもりです。

□1993年5月2日(日)

JOA公認 静岡大学 オリエンテーリング 大会 兼 静岡県民大会

■静岡県富士市

駅名:財間 定義(島根OC)

《日寺》富士山が一番美しく見えると云われる五月初めでしたが、あいにくの雨天で勇姿を拝めず。

《戸斤》一昨年の静大大会(創部20周年記念大会)に続き、今回もJOA公認大会。しかし、通算では「第何回大会」なのかを標記して欲しい。マップ名称「逆杉」のいわれも、どこかで触れて欲しい。

《人》ゴールデンウィークの公認大会+翌日はリレー大会という魅力で、エントリー1,056人+当日申込みの個人136人+トリム8組。

◇

Aクラス以上の“トップ2”は…

H21E	①鹿島田浩二	1° 11' 58"
10400m	②菅原 琢	1° 14' 53"
H19-20E	①入江 崇	1° 14' 59"
9900m	②川田 政道	1° 23' 29"
H21A1	①永井 直樹	1° 01' 48"
8100m	②上坂 寛之	1° 04' 34"
H21A2	①落合 公也	1° 05' 02"
8100m	②梅林 正治	1° 05' 11"
H35A	①鈴木 規弘	1° 14' 20"
7400m	②伊藤 哲夫	1° 18' 53"
H40A	①伊藤 誠厚	58' 02"
6200m	②酒井 克明	59' 44"
H45A	①尾上 秀雄	50' 29"
5800m	②谷口 直夫	52' 45"
H50A	①富樫 勉	42' 17"
4700m	②尾上 俊雄	44' 53"
H55A	①加藤 登	47' 16"
4000m	②山本 知由	47' 44"
H60A	①高橋 厚	44' 06"
4000m	②清水 良隆	45' 36"
H19-20A1	①清谷 智弘	1° 04' 50"
7400m	②小泉 敦史	1° 07' 16"
H19-20A2	①松沢 俊行	1° 00' 47"
7400m	②須藤 朗啓	1° 04' 30"

⇒

(前ページより続く)

D21A	①瀧川 朋子	1° 24' 35"	H35A	①鈴木 規弘	1° 05' 17"
	②中嶋久美子	1° 26' 43"		②荻田 育徳	1° 08' 54"
D35A	①吉岡 康子	1° 43' 44"	H40A	①伊藤 誠厚	57' 31"
D40A	①古澤 久美	1° 13' 00"		②小八重善裕	57' 58"
	②佐藤 順子	1° 46' 06"	H45A	①橋 直隆	58' 28"
D45A	①武石ケイ子	1° 53' 09"		②尾上 秀雄	1° 00' 20"
	②田中 洋子	1° 55' 52"	H50A	①ウラ・ソラ	53' 28"
D50A	①工藤 幸子	1° 16' 08"		②富樫 勉	55' 21"
	②若松リツ子	1° 19' 01"	H55A	①永元 秀和	1° 01' 30"
D19-20A	①三枝 愛	1° 19' 51"		②磯部 貞夫	1° 02' 51"
	②佐藤由布子	1° 20' 00"	H60A	①高橋 厚	1° 05' 20"
D17-18A	①田島 章江	59' 49"		②清水 良隆	1° 05' 56"
	②酒井さつき	59' 49"	H19-20A	①清谷 智弘	58' 03"
H21E	①竹内 藤雄	1° 14' 43"		②潮見 隆之	1° 08' 02"
	②武田 元	1° 15' 18"	H17-18A	①木俣 知大	37' 56"
H19-20E	①村上 泉	1° 29' 11"		②榎本 和弘	40' 00"
	②緒方 賢史	1° 30' 33"	H15-16A	①下崎 悟史	42' 53"
H21A1	①石井 博和	1° 04' 30"		②稲田 文朗	43' 44"
	②岩倉 毅	1° 05' 18"	H13-14A	①酒井 啓光	1° 00' 54"
H21A2	①鳥川 秀司	57' 52"		②永井 央紀	1° 04' 37"
	②尾和 薫	1° 02' 59"			

□1993年5月3日(祝)

**静岡O.L.C
リレー・オリエン
テーリング大会**

■静岡県富士市

※取材間 定義(鳥根OC)

《日寺》ゴールデンウィーク中の憲法記念日・時雨れ模様の天候でした。

《戸斤》前日の公認大会マップ「逆杉」を使用。『プログラム』冒頭、主催クラブ代表(静岡O.L.C・大澤宏治会長)の挨拶文中「テラインはその土地の所有者・管理者の好意によってお借りしているのだと自覚し、節度を持った行動をお願いします」という一節に、強く打たれるものを感じました!例えば、地主の一人が「異議あり」となれば、そのテラインは使用不可能に陥ります。

《日寺》前日の公認大会参加と兼ねた方が殆どで、HAL 49組・HAS 42組・MIX-A 31組・DA 23組・MIX-B 12組・HB 11組合計 168チームがエントリー。

▲各クラスの“トップ2”は…

- HAL ①京都の道楽息子ども 2° 18'10"
中村弘太郎→小長井信弘→樋口一志
②新・特攻野郎Mチーム 2° 24'15"
松沢俊行→清水和彦→入江 崇
- HAS ①とんびの会 1° 56'28"
岩本隆史→野嶋茂樹→古林 仁
②走れケンシロウ 1° 57'35"
井上英毅→小日向秀夫→奥村理也
- HB ①広島・お師匠ず 1° 58'43"
(山口大生?)→宮崎幸生→澤島良夫
②静大OBスペシャル 2° 02'19"
赤松俊彦→山岡寿一→大野隆久
- DA ①PIC—3 2° 21'31"
高野由紀→金子しのぶ→原 和泉
②おどきっ!! 2° 35'19"
渡辺初実→志村聡子→清宮秀子
- MIX ①マリンプルーの風 1° 37'33"
-A 澤田晴雄→関口道広→船橋亜希子
②きよしさん 1° 40'22"
小山 清→田中正人→田中真由美
- MIX ①ヤマモトファミリーC 1° 28'24"
-B 山本知由→山本敦子→山本知宏
②オオムラサキ 1° 29'39"
酒井か代子→酒井啓光→酒井さつき

今後の大規模大会のために留保。通行可能度入りマップによる阿蘇テラインの「名刺代り」として開催したもの。

《人》テライン開発だけならば兎も角、大会許諾はしていないとの熊本県O.Aとの悶着?大会実行委員長(曾根崎淳三)は、開催取り止めも考慮された段階があったというが、139人のエントリーの熱きオリエンティアの期待に応え、幸い会場校+地元のご理解・支援も得られて成功。

O.L.C アクアを中心に、少人数の運営を中四九の参加オリエンティア+近畿・東北などからの参加オリエンティアも運営を補佐。温かい雰囲気にも包まれ、好感の持った大会でした。

Aクラス以上の“トップ2”は…

HA	①竹内 藤雄	40'51"
7200m	②澤田 晴雄	41'48"
DA	①石黒 佳子	45'01"
5700m	②下江 範子	45'42"
H40A	①加藤 登	44'25"
5700m	②福田 良雄	46'43"
D40A	①池田 富子	57'54"
4500m	②井上 直子	58'38"

⇒

- H17-18A ①榎本 和弘 59'11"
8200m ②中島 洋平 1° 05'30"
- H15-16A ①中島 篤 53'47"
4700m ②宮林 正樹 55'30"
- H13-14A ①工藤 洋平 51'43"
4000m ②酒井 啓光 56'43"
- D21E ①宮本知江子 1° 09'47"
7400m ②木植 早生 1° 10'01"
- D19-20E ①千葉あかね 1° 10'06"
8200m ②高松 伴子 1° 23'31"
- D21A ①阿部 真弓 1° 01'31"
5800m ②鳥羽 都子 1° 02'30"
- D40A ①古澤 久美 1° 19'17"
4700m ②今井 栄 1° 10'06"
- D45A ①鈴木 幸子 1° 07'58"
4000m ②今井 栄 1° 10'06"
- D50A ①工藤 幸子 57'12"
4000m ②久保 君子 1° 02'32"
- D19-20A ①植田 佳子 52'30"
4700m ②小松代綾子 56'50"
- D17-18A ①酒井さつき 57'39"
4000m ②田島 章江 1° 06'17"
- D15-16A ①梶坂 知春 2° 06'46"
4000m ②海野 妙子 2° 13'22"

□1993年5月23日(日)

**第1回
阿蘇オリエン
テーリング大会**

■熊本県高森町

※取材間 定義(鳥根OC)

《日寺》熟期ま近かな真作表と、植え終えた水田とが混在する九州の田園風景。小雨に煙った前日の阿蘇は、当日は一転して快晴。阿蘇五岳と外輪山は、新緑を装い、美しく映えて見えた。

《戸斤》中四九のエリアで、最高のテラインが秘蔵される国立公園「阿蘇」での久々の大会(私の知っている限りでは、17年前の11月14日・JOLC公認の九州大会が、阿蘇山北麓の一宮町で、通行可能度抜きのマップで開催。往時の『成績表』によると、雨の中、個人199人+徒歩111組が参加している。今回は、最寄りの新生クラブ「アクア」の献身的な努力で、南阿蘇の高森町。最高級テラインは



93/5 才1回阿蘇大会帰途スナップ

93/5 才1回阿蘇大会会場風景



[第1回
阿蘇オリエンテーリング大会]

リポーター 福田 良雄 (OLC 吉備路)

5月23日、前夜までの降雨が嘘であったかのように九州地方は晴れ上がり、雲ひとつ見当たらない青空の下、雄大な阿蘇の展望には参加した誰もが、感嘆の声をあげずにはいられませんでした。

阿蘇五岳の一つ、根子岳の南斜面の裾に広がるテラインは、その雄大さが故に全くの片斜面であり、主体は檜の植林地で、その下枝を払った後の片付けが行き届かない部分のグリーンも、比較的走ることができて宣伝文句通りのAクラスの可能度と言えました。聞けば、来年二日間大会を企画しており、そのために良い部分を残しているとのこと。できることなら、どうかその内の一日を公認大会としてもらいたいものと考えます。

大会用のニューマップも通行可能度の入った5色刷りで、中・南九州では珍しく南限のO-MAPとの主催者のキャッ

チフレーズ通り、期待に応えた精度をもった仕上がりだったと思います。

大会開催問題で一寸ゴタゴタしたところがあったようですが、関係者の努力により無事開催。学連を中心に全国各地から150名近い参加者が参集。爽やかな汗を流すとともに、9名という少ないスタッフの手伝い買って出て協力する光景が各所に見られ、微笑ましいマイナーな大会を造り上げていました。

注目のH Aは東京HRCの竹内藤雄氏が澤田晴雄氏をおさえて優勝。D Aでは広島勢が競り合い、先輩・下江範子さんをおさえ石黒佳子さんが優勝。その他、H40 Aでは OLCほのくにの加藤登さんが、D40 Aではベテラン・大阪OLCの池田富子さん。Bクラスでは、広島大OLCの寺松伸一郎氏がそれぞれ1位となった。

93.5.23 第1回阿蘇OL大会
ゴール DA 下江 範子 (広島OLC)
ゴールスタッフ 木村 弥生 (かなぎOL)
(ボランティアのスタッフです)



植物性

- 持久力・体力……健康の維持
- ノンコレステロールです

プロテイン95

- 皮膚・毛・目・爪・筋肉組織・分泌腺・血・
- ホルモン等すべてプロテインで出来ている

レシチン

- 脳神経系統内分泌腺及び心筋成分
- コレステロール分解



● お問い合わせはO-JAPAN編集部まで

『ちょっと変わったオリエンテーリングの仲間の競技』

田中 康正 (茨城FOXテーリング倶楽部・広報担当)

ARDF『ラジオ・オリエンテーリング』を紹介いたします。

日本には10年前に中国から紹介された競技です。

ARDFを含めて、アマチュア無線局の資格は特に必要ありません。(但し、公認大会ではオープン参加となる場合があります。)

アジアの国々(中国、北朝鮮、韓国、モンゴル、インドネシア、そして日本)では、オリエンテーリングと同じように各国で競技会が全国レベルで行なわれています。先日も中国の大会の様子がNHKで紹介されました。

日本においても全国的にクラブや同好会が生まれつつあり、都道府県大会や、地区別大会(関東大会等々)があり、地区別大会の各部門入賞者(6位まで)が全国大会に出場する資格を獲得します。(本年度の関東大会は7月11日、全国大会は10月31日・熊本県)

そして全国大会の上位入賞者はアジア大会(今年は中華人民共和国で開催)や来年の世界大会(1992年ハンガリーでした)の選手候補者の名簿に登録されます。

日本の実力はといえば、まだまだ世界の壁は厚いですね。しかしOLでも活躍している、OLP兵庫の『出田裕子』さんはARDF競技会でも素晴らしい活躍をしています。世界の大会でも入賞経験があります。(私と同様1990年チェコスロバキアで行なわれた世界大会にご主人=コーチ=と出場されました。)OLからこのARDFの競技へ、または私たちのクラブのようにARDFからOLへと各競技会に隔たりなく参加する人が増えつつあります。

特にARDFは面白い、でも多くの競技会に参加するのだけが入賞できない、そんな人を多く見受けられるようになりました。本人にいろいろ話を聞いてみると、地図がよく理解できてない、様子。そんな人にOLで鍛えませんか、と誘っています。私はまだOLを始めて1年半ですが、Bクラスなりにがんばっていま

す。Aクラスが目標です。それからシニアE(エリート)ができれば良いですね。これからシニアが多くなる時代ですから。(シニア=H45, D45以上)今私43才です。

ARDF (FOXテーリング) 競技とは

★ARDF(Amateur Radio Direction Finding) RDF=電波を利用した方向探査競技

ARDF(フォクステーリング)とは、隠された電波の発信源(ポスト)を受信機と地図を利用してそのポスト位置を捜し出し、指定された数のポストを捜し当て、ゴールまでの時間を競うものである。ポストに至るコースは自由であるが、指定されたポスト以外を捜しても得点にならない。

ゲレンデはオリエンテーリングのコースを使用することがほとんどである。電波を利用するため各電波の発信源は混信を避けるため、5分ごとに1分間しか自分の所在からの発信はしない。そのためポスト(発信源)は5つしかない。方向探査をうまくやらないと次まで5分待たなければならない。

★ARDFのやり方

- (1) 自分のスタート時刻を確かめる。
- (2) スタートは5分ごと(ポストにある電波の各発信機は1分間電波を出し位置をおしえる。ポストが最大で5つなのでスタートも5分ごと)
- (3) 出発5分前に地図を受け取る。
- (4) 地図にポストの位置は記入されていないので、まず自分の位置を確かめるだけ。
- (5) スタートから100Mの間は電波を聞くことができない。受信開始地点の②ポストが見えたら電波が良く聞こえるような場所を捜し5分かけてポストの方向を探査する。

(6) (5) で確かめた方向だけではポストの場所は確定できないので、別な場所を捜しながら2点間探査をして(5)と(6)の交点を求めて、地図を読み、ポストを捜す。

(7) 指定されたポストを発見したらパンチカードの番号枠とポストの番号を確認してパンチする。

(8) ゴールに入ると審判員が到着時間をチェックしてくれる。(スキーOLと同じように自動的にチェックしてくれる場合が多い。現在ではコンピューターによる所要タイム計算ができるシステムを利用している。)

★順位の決定

- (1) 規定時間内にゴールした者だけが、順位を決定される。例:ポスト1つでも時間内にゴールすれば順位が決定される。しかしポスト2つでも時間をオーバーした場合は失格になる。
- (2) 規定時間内にゴールした者の中で、指定のポスト数を発見し、通過し、ゴールしたパーティ(ペナルティ0)はその所要時間によって決まる。
- (3) つぎに、ペナルティのついたパーティの順位は、所要時間によって決められたペナルティ0のパーティの後位につける。しかし結果は参考にしかならない。

※注1:規定時間とは120分を目安に決定されほとんどの競技会が120分前後およびポスト間直線距離5km~7km以内で設定している。

注2:ペナルティとは指定されたポストを発見できなかった数 ①②③④⑤の5つ
・青年男子(19~39才)全て5つを捜す
・一般女子(全ての女子)④以外の4つを捜す
・壮年男子(40才以上)は⑤以外の4つを捜す
・少年男子(18才未満)は③以外の4つを捜す

★競技部門

次のような競技部門があります。

OM部門：青年男子（19～39才）

YL部門：一般女子（全ての女子）

OT部門：壮年男子（40才以上）

JN部門：少年男子（18才未満）

この他に、60才以上のST部門や、少年女子のJN部門を設けることができる。

★その他

この競技は、中国から日本に紹介されてまだ10年ぐらしか経っていません。本場ヨーロッパではラジオ・ハンティングとして、歴史が60年を越えています。（Amateur Radio Direction Finding）

FMラジオなどの周波数を利用した競技も行われていますが、受信機という設備をもってOLをするわけですから如何に大変かわかりでしょうか。（受信機+地図+磁石+筆記用具+α）

◆（社）日本アマチュア無線連盟
= ARDFを普及させています。

◆FOXテーリング協会
= ARDFとは一部規則が異なりますが、ほとんど同じと考える。

一度、狐（FOX）狩りをしてみませんか

NAGANO JAPAN ZONE 25



8JØRDF

'92全日本
ARDF競技大会

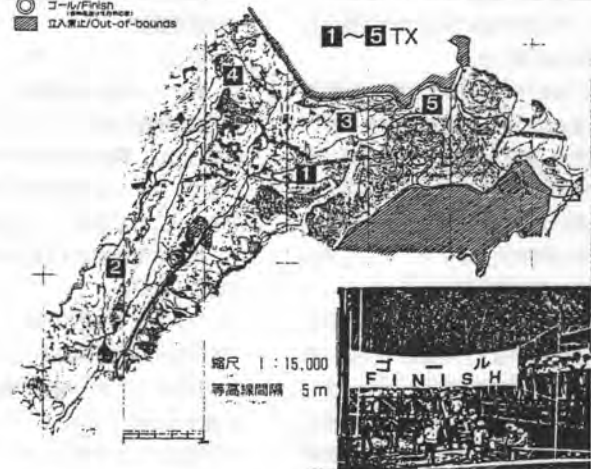
国立信州高遠少年自然の家周辺 11月1日(日)

信州晴ヶ峰高原

Shinsu Harusamine Kosen
長野県上伊那郡高遠町
Toshima T. / sming C. / Japan Prof.

'92 全日本ARDF競技大会
1.NOV.1992

△ スタート/Start
○ ゴール/Finish
■ 立入禁止/Out-of-bound



'Fox Hunting' in Hungary

[from "Compass Sport"]

= ハンガリーでの 'フォックス・ハンティング' =

田中康正さんから投稿を読ませていただき、ふと2～3か月前に海外誌で同じような記事を目にしたことを思い出し、あれこれと捜した結果、イギリスのオリエンテーリング機関誌「コンパス・

スポーツ」93年2/3月号に載っていました。写真やコース入り地図などを含めて、ロバート・ベッカーという人による3ページにわたる投稿ですが、かいつまんだ抄訳でご紹介します。<編集部>

イギリスでは、この 'ラジオ・フォックス・ハンティング' ということばを知っている人は少ないが、世界の他の地域とリわけ東ヨーロッパでは良く普及している。より正確な呼称は "Amateur Radio Direction Finding" (ARDF)、そして国際アマチュア無線連合(IARU)によって大会が主催されている。限られた規模のARDF

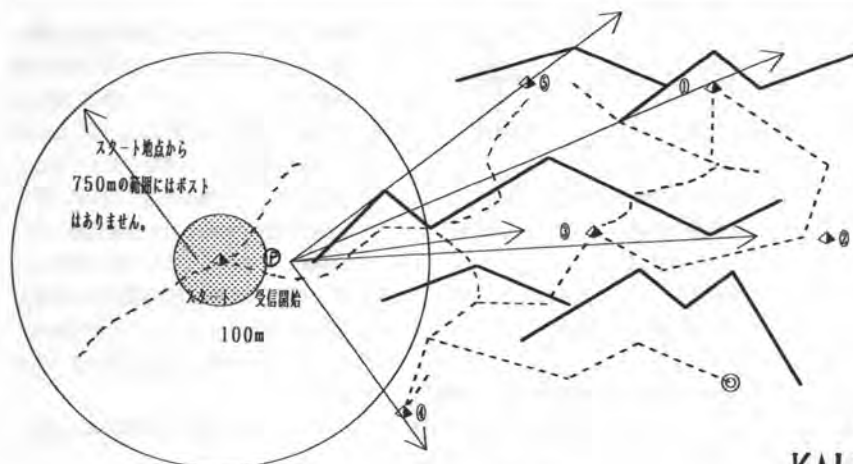
は、イギリスでは1920年代(オリエンテーリングに先駆けて!)から活動しているが、現在とは完全に異なった方法であった。グレートブリテン・ラジオ会(RSGB)が、この活動を国際的なものになろうと熱心に取り組んでいるが、そのお陰で1992年9月にハンガリーで行われた世界選手権に参加する機会を得た。私はオ

リエンティアであり無線アマチュアである(コールサイン G3ORI)ことから、両方の世界の良いところで満たされた私の今回の経験をご報告する義務がある。

<編集部>この後、田中氏と同様のフォックス・ハンティングの説明があります。>

競技者はオリエンテーリングと同様に個人で参加します。I O F基準で描かれた地図が使われ、それはスタートで渡される。われわれが見慣れたスタートの三角印やゴールの二重円は記されているが、そのコース記号に大きな違いがひとつある。"FOX"(赤)位置が記されていないのである。その場所は自分で解いていかなければならない。

<編集部>以下、5つの"FOX"のことや



KALININGRAD-USSR

UA2WJ

73!

PAVEL V. ZINOVYEV

P.O. BOX 535

KALININGRAD 236041

To JH1DLJ

DATE	GMT	MC	RS/T	2-WAY
19 MAR 1991	2103	10.1	449	CW

TX-200W ANT-¹⁰⁰ Loop ZONE-15 * REG-125
P&E-QSL-TNX

距離、制限時間のことなどが書かれ、さらにクラス分け、2日間大会で1日目と2日目では“FOX”の発信距離を違えること、その距離が短ければ一層難しくなること、木や雨なども影響する、などもつけ加えられています。>

ハンガリーでの世界選手権参加者は、21か国から全部で180人を数えた。東ヨーロッパ各国のほとんどが強豪を描えて、そして主に新しい国家であり、その旗の下に誇らしげに参加していた。中国、日本、韓国、そしてモンゴルの極東各国も参加していた。ほとんどのチームは、競技者10人にチーム・マネージャーや通訳というフル・エントリーであった。イギリスは2人という小規模であったが、アリーナでは、かつて無いほどの多くの人の興味を惹き付けた。

<編集部=この後、この種のレポートの常套として、競技会そのものの様子と、自分たちが如何に競技したかという内容

となりますが省略します。>

2日目終了後、表彰と多くの人々との交流を深めることができる盛大な宴会が続けて行われた。例によっていろいろな国のチーム間でのギフトや記念品の交換があり、幸い用意していたRSGBのネクタイ、本、バッジ、しおり、などなどの品々が無くなっていった。代わりにわれわれは人参茶（韓国から）や中国の立派な飾り物など、びっくりするほどの物をいただいた。

そして成績は？そう、全ての受賞者は東ヨーロッパと中国で占められた。本誌の読者のみなさんは（何人かのオリエンティアを含む）スカンジナビア諸国のチームが表彰対象にならなかったことに驚かれるだろう。そして、イギリスのわれわれは？期待どおり（読者のみなさんは期待していなかったとおり）。成績は二の次です。次の大会まで、待ってください。

全てが全て、大変おもしろい、そして為になる経験をした。RSGBにたくさんレポートすること、このスポーツの普及に今後大いに手を貸すべきことを知った。両方とも普及している他の国々では幸いにも共存しているようだ。無線とオリエンタリング共通に興味を持っている人々には格別に魅力あるものである。イギリスにこのスポーツをテイクオフさせようとするのは、発信機やレシーバーなどの特殊な器具が先ず必要なことから難しいことかも知れない。しかし、もしどなたか興味を感じられた向きは、当方にご連絡ください。

Robert Vickers, 45 Willow Park Drive,
STOURBRIDGE, West Midlands, DY8 2HL
England Tel: 0384 377008

[From "Compass Sport" Feb/Mar 1993]

パーマメントコース

リゾ〜と



□1993年2月21日(日)
岐阜県 No.3 ~水93-1~
「恵那川山峡」
[距離] 12 km
[ポスト数] 10本

O-MAP

■スタート/恵那市大井町2709 売店
「なぎさ」☎0573-25-2269 前 ■公共
交通機関/JR中央線「恵那」駅下車、
以「恵那峡」下車。乗船場方面へ約300m。
■地図取扱/売店「なぎさ」または「恵
那市まきがね公園体育館」

岐阜県OL協会の兼松、徳村、中村、
山田、原田の各氏と成田さん、そして私
の7名で調査。スタート地点の売店「な
ぎさ」に向かう。案内板は「なぎさ」前
の駐車場にあるが、マスターマップは日
に焼けて見づらい。地図取扱も「なぎ
さ」となっているが、当日は閉店(駐車
場の人に聞くと最近閉店が多いとのこ
と)。もう一か所の地図取扱所の「恵那
市まきがね公園体育館」に車で行き、
地図を入手。マスターマップも有り。ま
た、スタート地点まで戻り出発。

スタート〜①: スタートからロープウ
ェイ乗り場を経由して山頂まで登り、山
頂から①へ下るルートをとる。しかし、
下りの小道がいくら探しても無い。登っ
て来た道に戻り、恵那峡沿いの小道から
①へ向かう。小道の入口付近は分かりにく
く、また小道の途中崩れている所もあり
、あまり整備されていないようでした。
①から川沿いに上る途中、川を渡り
対岸の山側に向かわなければならぬが、
渡る場所が良く分からない(簡単な
橋を設置してもらいたい)。渡れそうな場
所を探して対岸へ。苦労して②へ。②〜
④は順調。途中からの恵那峡の展望は素
晴らしいです。④〜⑧も同じく順調。⑧
〜⑩は恵那峡に水を蓄える大井ダムの上
を通る。⑩を通過しゴール。

感想としては、スタートから②までの

□1993年3月15日(月)
兵庫県 No.10 ~大高93-4~
「三倉山」
[距離] 7 km
[ポスト数] 7本

洲本港から西へ徒歩15分の「千福寺」
がスタート地点。ここはコースホテル
も兼ねているところだが、この1年は休
みにしているとのこと。立て札型のマス
ターが入ってすぐにあるが、コースは記
載されてなく、マップとマスターは受付
にある。マップは古い1:25,000のもの
であった。寺の住職さんがコース状況を
詳しく把握されており、②が工事で一時
撤去されていること、⑤がやはり工事の
ため南に移動したこと、ポストは昨年新
しいものに取り替えたことなど丁寧に教
えてくれた。②付近の工事が終了次第
ポストを埋めなおし、地図も新しくす
るそうである。その工事現場は立入禁止に
なっていたが、そこを通らないと③へは
行けないので黙って入っていったが何も
言われることなく通過できた。③が「三
倉山」で海が見渡せ、ポストの手前には
「洲本城」がある。この日は冷たい雨が

ア小道は危険な所もあり、家族向きではな
く、再整備を望みます。その他は順調に
回ることができ、ポストマークも完備さ
れていました。しかし、サビ等で傷みが
ひどく記号の見難いのもありました。マ
ップは、あらかじめ「まきがね公園体育
館(月曜休館日)」にて入手後、スタート
地点へ向かった方が良いでしょう。所要
時間は3時間。ゴール後は⑩番近くの
「簡易保険保養センター」で入浴(400
円)し、冷えた体を温めてから帰途につ
きました。

リポーター:
〒509-01
岐阜県各務原市輪沼朝日町5-248

水野 博司

降りしきり、せつかくの景色も霧に霞ん
でいたのが残念だった。④へは地図に道
がないが、ドライブウェーが左に曲がる
少し先に小道の入口がある。⑤へも出戻
りの必要はなく、小道をそのまま辿ると
以前⑤があった地点の近くに出る。新し
い⑤の位置が教えられた位置と違って
いたため、1時間近く探して漸く発見し
たが、ポストは以前の⑤の真南にある池の
東を通る道沿いにある。その他は容易。
OLに対する熱意を非常に感じるコース
であった。

(千福寺 ☎0799-22-3309)

□1993年3月16日(火)
和歌山県 No.7 ~大高93-5~
「串本」
[距離] 12 km
[ポスト数] 8本

紀勢本線「串本」駅下車、南へ徒歩5
分の「串本町役場」前がスタート地点。
外のマスターは古い黒のコピーのため
明瞭。マップは役場の受付に頼むと持っ
てきてくれる。3枚欲しいと言ったら、
要らないものなのか18枚もくれた。潮岬
を一周する本州南端のコースで、綺麗な
海岸線の風景が楽しめる。昭和62年5月
29日に田中美智敏会員が歩かれ、O-
JAPAN 第46号にれば一と掲載されてい
る。その時は整備されていたようである
が、非常に残念なことに最近全く整備
されておらず、③④⑥が不明。①⑦は頭
が落ちていた。③は棒のみ発見、④はぼ
ろぼろのまま放置されていたので、地元
の方が要らないものと思って捨てしま
ったそうである。②⑤⑧も潮風の影
響でかなり腐食していた。このまま放置
しておくにはとても惜しいコースなので
是非整備してもらいたい。海岸に近いコ
ースは鉄製のポストは使わないほうがよ
いと思う。現状では勿論お薦めできな
い。(串本町教育委員会 ☎0735-62-0555)

リポーター:
〒344 埼玉県春日部市武里団地5-23-503
大高 竜亮

□1993年4月15日(木)

山梨県 No.31 ~窪93-4~

「大滝山」A・B

[距離] Aコース 11km
Bコース 6.4km
[ポスト数] Aコース 11本
Bコース 8本
*既報:0-J 91/3 (木佐木)

◇マップ取扱所/丸菱商店。JR中央本線・勝沼ぶどう郷駅出口(西側のみ)を出て右側の坂道を下ったT字路の左後方。定休日には特に決まっていな。朝は8時半頃から開ける。鍍戸が閉まっているときでも裏に誰かいるので玄関か裏にまわって声をかけてもらえばよいとのことであった。定休日無し故、休日も多分同様。

◇マスターマップ/駅前広場の左手前方に掲示板。コースA, B用が掲示されている。ポスト位置は明瞭。掲示板は北向きに立っており、直射日光を避けて褪色させない配慮あり。

◇マップ/縮尺 1:25000の旧マップ。1部 ¥10の古典的価格。新陳代謝の低さに驚く。

◇ポストマーク/標準サイズ。赤地に純白の記号が鮮やかで、少なくともヘッドは最近更新されたようだ。A・B共通ポストは4本。従ってポスト数は全部で14本。ポストB②は倒れ、A⑨は頭部のみが地上に落ちており支柱は不明。

◇コース/Aコースは展望台(標高約1000m)、大滝不動尊(標高約950m)とぶどうの丘をめぐる。変化に富み、適度に高低差もあって、ややハードなコース。

◇メモ/駅は朝9時までは無人、夕方6時には無人であった。休日はどうなるかは不明。自動券売機はオレンジカードの使えないのが1台のみ。カードで切符を買うつもりでいるとあてが外れる。

富田氏にいただいたコピーとマスターを照合して9:12スタート。丸菱商店に寄ってみると鍍戸が閉まっていた。まだ

開いていないと思い、帰りに寄ってみると朝と同じ状態。もう閉まったのか(17:55)と思い諦めかけた時に偶然店の人と会い、上記の情報を得た。

全ポストを一筆描きで回った。順序は次のとおり。△-B⑤-B②-A①(B①)-A②-A③-A④-A⑤-A⑥-A⑦-B③-A⑧(B④)-A⑨(B⑥)-A⑩(B⑦)-B⑧-O。所要時間は8時間40分(内休憩時間の合計は約2時間)でたっぷり1日かかった。

(反省:ポストはB②から始め、A⑧(B④)からは、B⑤-A⑨(B⑥)と回る方がよい。理由は後記。ポストB②は一段高いぶどう畑の北東隅に倒れていて見えず、行き過ぎた。この付近は工事中で、道は結構良くなっている。B②からA①へ行く時に最初に横切る沢は開発のために埋められ、地図にない工用の道ができていて。A②からA③への沢の右岸を右下に沢を見下ろしながら上る道は、灌木の枝や倒木が結構道を塞ぎかなり荒れている。灌木が芽吹き葉が繁ると完全に道が塞がれて見えなくなり、今でも困難な歩行が一層困難となるだろう。ともかく帽子と軍手は必要である。上の広い道までの2/3位来たところで北西方向に鋭角に分岐する小道は100mも行かないうちに通行困難となり引き返したが、その先での小道の合流点ははっきりしていた。常緑樹の下の小道は保存状態が良いが、落葉樹の下の小道には道の中まで灌木が進出してきており、陽の当たる部分の荒れ方が特にひどい。シーズン前に整備しておいた方がよい。植生の状態に加えて日溜りに休んでいた野鳥が飛び立つなど、ここ迄の小道が唯一ワイルドな気分の出るところ。A③は展望台で眼下に駅の桜並木、ぶどうの丘とその先に続くピンクのモザイク模様彩られた甲府盆地の眺望が素晴らしかった。空気が澄んでおれば南アルプスの山々が美しい筈(この日は春霧のため見えず)。A④は大滝不動尊の石段を上がりきったところ(この順序では下り始め)にある。朱塗りの本堂と背後の大滝の眺めは一見の価値はある。水量が多い時期はもっと見事な筈。A⑥は大滝山青少年旅行村の中央管理棟横、A⑦は前宮の近く、

A⑧は通神社の境内、A⑨は小丸山百番観音、A⑩はぶどうの丘の建物群の南端(レストラン横の広場)にある。その他のポストは道の曲りや分岐の付近にある。A⑧から⑨へは、B⑤を経由するのが正解。A⑧からJRのガード(工事中)をくぐり、鬮川川の右岸を進んだ先にある橋は水用の橋で渡れず、川の右岸を下りマップの左にはみ出したところにある新赤坂橋でやっと川を渡って、大回りをしてしまった。そのかわり「赤坂のヒヒラギ」なる名木に出会った。A⑨から南に見える丘の上には青屋根の小さな塔が建設中(駅からもよく見える)で上部に鐘が収められている。ここからぶどうの丘の建物までの間は工事中で立派な道路ができており、行き止まりではなくなった。ぶどうの丘を下りB⑧を経由して緩やかな上り道を行くと間もなく駅である。

リポーター:

〒191 東京都日野市多摩平5-2-43
窪田 宏明

□1993年4月16日(金)

長野県 No.3 ~木93-1~

「上伊弉册」

[距離] 10km
[ポスト数] 10本

MAPは長野県辰野町民館内の教育委員会にある。一覧表の「宮原商店」は現在はない。

JR飯田線の「宮木」駅下車。駅を出ると目の前に踏切があるが、それを越えずに線路と45度の方向の裏通りを直進すると10分でT字路にぶつかる。すぐ右側に見える建物が町民館で1階に教育委員会がある。MAPはその体育課にあり、マスターはコピーしたものをくれる。その時、「地名入りの地図があったらください」と請求すること。この地図はコースの半分しか書いてないが、MAPより新しく役に立つ。

MAPは1:25000の古典MAP。おそらく昭和50年代前半のMAPである

う。したがって高速道路は記入されず、主要道路以外の道はあまり信用できない。

コースは山の中30%、山のふもと10%、畑30%、舗装道路30%で標高差は100m ぐらい。

ポストマークは標準の大きさに、最近塗り直したらしくて、「これがPCの真のポストだ」と言わんばかりに胸を張って全員立っている。

①は道からは見えない。道から10mほど右へ上った野球場の照明塔の近く。②は神社の真後ろへ30mほど上ったところ。③は岡の中腹にある広い墓地の5本松の下。④は小さな町工場の後ろで用水路沿い。⑤のあたりはMAP上の道は信用できない。マスターの⑤の位置は相当ずれている。④と⑤の間で小径が消えたらコンパスを活用して進めばよい。私は「南」へ進路をとって疎林の中を前進したら、再び小径に出た。⑥は大きな道沿い。⑦は尾根。⑧は日輪寺の池。⑨は高圧線の鉄塔の下の道沿い。鉄塔は2本見えるが山のふもとの方。⑩は道路から5mほど右へ上ったゲートボール場の隅。ゴールは「伊那松島」駅で、ひたすら南下する片道コースである。

実は昨年1月に歩いたが、その時は山の中は残雪が深く、2本のポストが不明であったので、今日再挑戦して全ポストを確認した。Noから考えると古いコースのはずだが、ポストは新鮮でコースも生き生きしている。管理者(教育委員会)に感謝したい。惜しむらくはMAPの古さである。200円でもよいから新しいMAPを作って、いつまでも存続させてほしいコースである。

前回のレポートの中で、MAPが無いようなことを書いたが、その後倉庫の中から大量に出てきたらしいので当分は大丈夫である。

桜は2分咲きぐらいで、まだ早春のような感じであった。

教育委員会は土・日・祝日は休みのはずだから、必ず電話で確認をして出かけること。昨年11月号のO-JAPANで、大高さんが詳細にレポートされているので参照されたい。

(辰野町民館 TEL. 0266-41-1681)

□1993年4月25日(日)

新潟県 No. 11 ~木93-2~

「さんじょう
大崎山」

[距離] 11km

[ポスト数] 10本

O-MAP

JR信越本線「東三条」駅下車、タクシーで「グリーンスポーツセンター」まで行く。タクシーは10分ぐらいで1580円。バスもあるが、午前中2本ぐらいでバスを降りてから20分以上歩くことになる。

MAPは「グリーンスポーツセンター」の受付にある。マスターの掲示板は建物の前にあり明瞭。月曜と祝日の翌日は休館となるので注意。1:15000のO-MAPで、大会用MAPから通行可能性を除いたようなものだが、残念ながら調査日が昭和60年のため、点線の小径の中には消滅して実在しないものがある。

コースは山50%、畑20%、人家20%、林10%で、標高差は100m ぐらい。コースは良く整備されている。

ポストマークは標準の大きさに、錆びもせず新品に近い状態だが記号が薄れたものがある。このコースのポストは雪による腐食を防ぐため、冬季は撒収して保

管している。したがって、晩秋から早春の間に行く時は、電話で確認してから出かけるのとポストが立っていないことがある。ポストには大会用パンチが下げてあり、スポーツセンターで活用している様子がうかがえる。

特に難解ポストはないが、回る順序を工夫してみるとよい。例えば、「センター」→⑨⑩①②③④⑦⑧⑥⑤→「保内(畷)」駅のように回るとよい。この順序は富田氏の案で、私もその案を利用させていただいた。

「保内」駅は「新潟」駅と「長岡」駅の間で、どちらへ出るにも便利である。MAPの最上部に「保内」駅の位置が明記しており、⑥から400m ぐらい。

⑩の横には明治20年に日食を観測した記念碑があり、しばしば往時の様子をしのぶ。期待していた桜の花は数日前の強風で散ってしまい、無情の雨に急かされた一日であった。ちなみに、当日、関東地方は強風の晴天であった。

(グリーンスポーツセンター

TEL. 0256-38-3968)

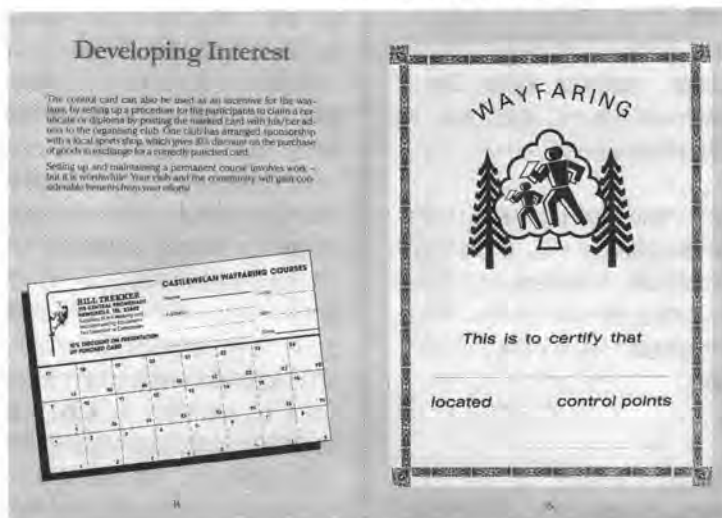
リポーター:

〒185 東京都国分寺市泉町

3-5-6-104

木佐木 輝雄

I OF発行のPCに関するパンフレットから





第15回
東大OLK大会

1993.6.6, SUN.

都道府県協会より

□ 島根県オリエンテーリング協会からのお知らせ

第19回全日本オリエンテーリング大会の開催に際しまして、参加、御支援、御協力いただきましてありがとうございます。

さて、大会にエントリーされ参加されませんでした皆様(友人持ち帰り分を除く。)および回収地図の一部を保管しております。送付ご希望の方は、定形最大(長形3号)の封筒(72円切手貼り付け、送付先を明記したもの)および参加クラス、エントリー番号、氏名、電話番号を明記したメモを、下記の申込み先まで送付してください。なお、プログラムを合わせて希望される方は、上記の封筒に替えてB5サイズが入る封筒(250円切手貼り付け)により上記の要領で送付して下さい。

また、大会に使用しました地図の在庫が多少あります。ご希望の方は、ハガキ

に送付先、希望地図、枚数、電話番号を明記の上、申込み先へ申し込んで下さい。地図の金額は、全ポストセット(全ポ1枚、白地図2枚)1セット1,000円、各コース地図1枚300円です。代金は後日請求させていただきます。なお、1,000円分以上申込みの方につきましては、送料は当協会が負担致します。(各コース地図のうち、H21Eなどクラスにより在庫のないものがあります。在庫のない地図につきましては連絡させていただきますのでご了承下さい。)

□

[申込先]

〒690 島根県松江市内中原町 124-14
堀江 利則あて

[連絡先電話] ☎0852-27-1653

[申込み締切] 平成5年8月末日

□ 東京都オリエンテーリング協会

新年度(平成5年度・6年度)の役員決定

- 会長 伊藤 牧夫
- 理事長 中山 孝
- 副理事長 奈良 昌一、門伝 良男
- 常務理事 高橋 尚(事務局長)
- 加瀬 丞(会計)
- 鈴木克太郎(会計)
- 会計監査 中村 信一、小川 昭
- 事業部長 西岡 道夫
- 副部長 山岸 倫也
- 普及部長 清水 良隆
- 副部長 酒井 克明
- 広報部長 今村 元

□

情報あれこれ

□ 「AMIGASA」「富士見の森」テライン使用について

東京オリエンテーリングクラブ

● 「AMIGASA」

国有林を含むため、「入林許可願」と「入林者一覧」の提出が必要です。届けは、当クラブでまとめて営林署へ提出いたします。提出時期は次のとおりです。

- ・第1回 6月末日
(8月上旬までの入林予定者)。
- ・第2回 7月末日

・9月以降の入林予定者とはご相談ください。書類等は当クラブにありますので、下記へご連絡ください。

[東京オリエンテーリングクラブ事務局]

〒177 東京都練馬区関町北3-38-3
斎藤 英津子 ☎03-3929-1715

● 「富士見の森」

昨年のトラブル以来、未だ地主の方と話し合いができない状態ですので、本年度は残念ながらクローズということになりました。(5月30日現在)

今後も話し合いのための努力は続けますが、前年にお求めの地図をお持ちの方はご使用にならないようお願いいたします。

編集部より

◆うとうしい梅雨空、それも後半に入って強雨をもたらす低気圧が西の方から次々にやってきます(7月2日)。◆前々

号でちょっとお知らせしましたが、編集部は7月半ばから後半にかけて2週間ほど留守にしますので、7月号が早めの発

行となります。今、鬱の状態から醒めた編集者、かなりのスピードで作業が進んでいます。次号も頑張ります。

O-JAPAN 発行人/田口 昭子 : 購読料 年間4月~3月 ¥3,000 : 編集責任者/田口 肇
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5 : (高校生以下) ¥1,800 : Chief Editor: Hajime Taguchi
TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500 : '93.7月~'94.3月 ¥2,250 : Editorial Address:
(Annex) 0287-77-1977 : 1部あたり頒布価格 ¥250 : 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
郵便振替口座/横浜7-46870 (加入者名) O-JAPAN 編集部 : Yokohama, 233 Japan